

相次ぐ学校事故に厳しい声

市議会文教経済常任委員会審査

市議会文教経済常任委員会審査が6日、行われました。

議案審査に入る前に直江津南小などで発生した学校事故について市教委から報告がありました。蛍光管の破片が給食に混入した事故、漂白剤入りの水の誤飲事故はマスコミでも大きく取り上げられ、いったいどうなっているんだという声が市民から上がっていました。

市教委が事故概要、今後の対策について報告した後、委員からは、「事故の背景には職員の多忙化があるのではないか。用務員のサポート体制など負担軽減が必要だ」「学校内部の連携はどうなっているか」「安全、安心の根幹をなすものだ。ここで信頼を失ったことは極めて残念だ」などの声が上がりました。

市教委は、「教員がやるべきこと、用務員がやるべきことの精査をしていく。教員同士の連携強化のためにも打ち合わせが大事だと思っている」「保護者説明会などで、どんな形で校内の周知がされていたのか」「報道よりも先に保護者に連絡してほしい」「救急車の要請は学校の判断でできるようにしてもらいたい」などの声が寄せられたなどとのべていました。

二度とこういうことがないようにしっかりと対策を講じてほしい。

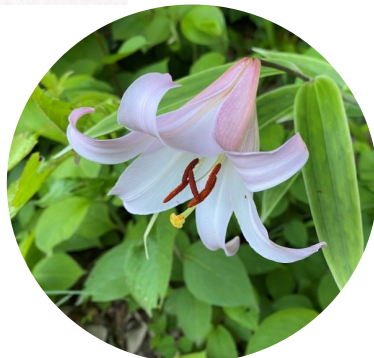


囲む会で質問次々

8日は「馬場県議と橋爪市議を囲む会」でした。吉川区を中心に柿崎、浦川原、牧区から20人ほどが参加してくださいました。

会ではまず、馬場県議が先の臨時県議会での原発県民投票条例をめぐる審議の様子を、私がコウノトリと上越市の農業について報告しました。その後、参加者からは「上越市議会の中継を見ていて、賛成討論があるのに、反対討論無しで不採択になる請願があった。いつもこんな調子なのか」「コメ問題で農協が悪者になっている。どう思うか」「介護問題で村上市の取組に注目している。上越市でももっと介護問題の質問を」「原発問題、知事も議員も煮え切らない感じがした。納得がいかない」など質問や意見などが寄せられました。

今回の「囲む会」では、時間が足りないほど活発な意見交換ができました。介護問題などいくつかの課題で議論を深めることができたことは良かったと思います。



【ササユリ】（再掲）。ユリ科の球根植物。漢字で「笹百合」と書きます。「ヤマユリ」と呼ぶところも。20年ほど前までは吉川中学校近くの山などでたくさん見かけましたが、いまはぐんと減っています。花期は5月～7月。薄いピンクや白の花を咲かせます。花言葉は「純潔」。5日、浦川原区から吉川区に戻る途中出会い、感動しました。



【吉川区のコウノトリ、2羽巣立つ】吉川区にあるコウノトリの巣では、9日、10日と2羽のヒナが巣立ちました（12日現在）。ヒナは4月3日から誕生。10日ほど前からジャンプを繰り返し、巣立ちの準備をしていました。もう1羽もこのレポートが届くまでには巣立つことでしょう。写真は吉川区竹直の田んぼに下りたヒナです。11日の朝に撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2207 2025.6.15

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」は ← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八五四回

手がかり

「元氣なうちに一度橋爪さんに会って話をしたいと主人が言っています。お忙しいでしょうが、時間のある時にわが家に来ていただけないでしょうか」

先週の木曜日のことです。留守電に記録された固定電話に電話すると、電話に出られたのは市内の海岸部に住むMさんのお連れ合いでした。Mさんの名前は聞いたことがあります、どこでお会いしたのか浮かんできませんでした。

Mさんは、何年か前に私の随想シリーズ「春よ来い」を読んで、自宅の玄関にある大きな酒の入れ物（甕。陶器製の大きな容器）の由来を知ることができるともいらないと思っただけです。それで何度か私の住んでいる代石（たいし）に來られたのだそうですが、事務所が私がおらず、会えずじまいでした。電話では詳しいことを聞きませんでしたので、私と会って解決できるのだからと疑問が残りました。

電話があった日の翌日、市議会の常任委員会が早く終わったので、私は夕方五時前、国道から少し入ったところにあるMさん宅を訪れました。

居間で椅子に座っておられたMさんと挨拶を交わした後、早速、玄関にある甕（かめ）を見せてもらいました。白い樽の形をした甕は幅も高さも四〇センチほどあり、けっこう重そうでした。脇には銘酒「白扇」と書いてあります。

おお、これは懐かしい。そう思いながら、念のため、インターネットで調べると間違いありませんでした。埼玉県造り酒屋、藤崎惣兵衛商店（「十一屋」とも呼ばれていた）で造っていた酒の銘柄です。藤崎商店は一度事業を中止し、いまは長瀬（ながとろ）町で再開しているそうですが、亡き父が出稼ぎに行っていた当時は寄居町にありました。

Mさんは、いまから八年前の二月、私が

「春よ来い」に書いた「酒屋の看板」という文章に大きな関心を持ってもらえました。ここには、市議会で秩父市へ視察に行く途中、寄居駅で父がかつて勤めていた造り酒屋の看板を見つけた時のエピソードを書いています。

Mさんが関心を持たれた理由は、全く同じ字の寄居町が新潟市にもあることで、そこのお酒だと思っていたら、私の記事で埼玉のお酒だったことがわかったからとのこと。私と会えば、そのお酒がなぜMさん宅にあったのかを知る手がかりを得るかも知れない、そう思われたのでしよう。

率直に言って、私は藤崎惣兵衛商店について「白扇」という銘柄についても詳しくは知りませんでした。せいぜい、埼玉県大里郡寄居町にあった蔵くらいしか分かっていなかったのです。私は、Mさんの父親にあたる人がこの酒蔵で働いておられた可能性が高いと思っていましたが、証拠になるものは一つありません。そんなわけで、父が若かりし頃、岩室の宝山酒造で出稼ぎ仕事をしていて、当時の新潟醸造試験場のスタッフと付き合いをしていたことなどを語りました。

Mさんは原之町鳥倉団地の石野さんなど吉川区内に知っておられる方が何人かおられ、その人たちとの付き合いについて語ってくださいました。また、大潟区に住んでいた亡き弟のことも存じました。

私がMさん宅に滞在した時間は三〇分ほどでした。おそらくMさんがあてにされていた手がかりは見つからなかったと思います。ただ、帰り際に、玄関脇でキョウガノコがピンクの花を咲かせている姿を私が目にして、コシジシモツケソウのことを語りました時、お連れ合いがとてもうれしそうな表情をしてくださいました。手がかりはなくても、Mさん夫婦は何か連想できるものが頭に浮かんだのかも知れません。

クリーンセンター変圧器を視察



5日、クリーンセンターに寄り、前日の厚生常任委員会で話題となった変圧器を見せてもらいました。かなり大きいとは思っていましたが、予想よりも大きく、重さも17トンからあるとのこと。移動だけでもたいへんであることがよくわかりました。



上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月4日(水)	6月11日(水)
上越消防署	0.053	0.053
上越南消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.057	0.060
名立分遣所	0.057	0.060
高士分遣所	0.050	0.050

山菜採りは最終盤

いま、春の山菜採りの最終盤です。ミズナ（サワナとも呼ぶ）、フキ、そしてネマガリダケが美味しいですね。

先日、大島区のある家に行ったら、2人のお母さんがネマガリダケの皮むきをされていました。5年ほど前まではおが家でも母がやっていた。イラストはネマガリダケの皮むきの様子。



手がかり

Mさんは、いまから八年前の二月、私が

私がMさん宅に滞在した時間は三〇分ほどでした。おそらくMさんがあてにされていた手がかりは見つからなかったと思います。ただ、帰り際に、玄關脇でキョウガノコがピンクの花を咲かせている姿を私が目にして、コジシモツケソウのことを語りだした時、お連れ合いがとてもうれしそうな表情をしてくださいました。手がかりはなくても、Mさん夫婦は何か連想できるものが頭に浮かんだのかも知れません。

